

- 伝灯奉告法要円成□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 伝灯奉告法要ご満座□6
- 専如門主ご消息□8
- 教区・別院本年度予算□9
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



2017年(平成29年)
7月1日
第113号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

伝灯奉告法要 つつがなく円成



「喜びと感動」に45万人

「ご法義を社会に」新たな歩みへ

第25代専如門主の法灯継承を仏祖に奉告するために、昨年10月から10期80日間にわたってにぎにぎしく営まれてきた伝灯奉告法要は、去る5月31日のご満座法要をもって円成した。前門さまご健在のうちに営まれた法要には、国内はもとより遠く海外からも45万4996人が希有のご勝縁に遇うとともに、喜びと感動を分かち合う法要となった。ご満座の31日の法要では、ご門主が全国の僧侶・寺族・門徒に向け、法要の円成に寄せて「ご消息」を發布(8面掲載)、念仏者としての生き方を示された。また6年後には親鸞聖人御誕生850年、さらにその翌年には立教開宗800年という節目の年が迫っており、それに向けて新たな歩みを始めるとともに、ご法義を社会に伝えていくことが教団の使命となろう。

阿弥陀さま

ハウツー仏事

と私

⑮ 仏前結婚式

悲しみを縁とする仏事もあれば、喜びを縁とする仏事もあります。

結婚式や初参式(お子さんのお寺への初参りの儀式)や入仏式(お仏壇にご本尊をお迎えする儀式)は、喜びを縁とした仏事です。なかでも結婚式は、喜びの最たるものではないでしょうか。

結婚式といっても、その形式によって、神社神道の「神前結婚式」、キリスト教の「神前結婚式」、無宗教の「人前結婚式」、そして仏さまの前で行う「仏前結婚式」があります。筆者が小学生だった昭和30年ごろの結婚式(滋賀県湖西地方)は自宅で行われ

ており、「祝言」とか「嫁入り」と呼ばれていました。式の当日昼ごろに新婦さんの実家に親戚が集まり、「出立ち」といわれるお祝いの宴席を行い、新婦さんが実家のお仏壇に最後のお参りをした後、親戚や近所の人に見送られて、実家を出ます。

その日の夕方に新郎宅(婚家)に行き、お仏壇に

お念仏薫る家庭へ第一歩



鷲森別院本堂での結婚式

仏さまの前で祝う新たな門出

お参りをして、その仏間の座敷で「祝言」を上げ、親戚だけのお祝いの宴席をさ

れていました。その後、自宅で2日間から3日間にわたる祝宴(今の披露宴)が行われていたことを覚えています。

現在では、結婚式は結婚式場やホテルなどで、挙式と披露宴がセットとな

行われ、その会場の式場で、当人が信仰していなくても、神道やキリスト教形式での挙式をするのがほとんどではないでしょうか。

以前は、人の命の誕生も人生を終えること(臨終)

も自宅でありましたし、また、良き伴侶を迎える儀式(結婚式)も、人生最後の儀式であるお葬式も自宅で行われていました。それが昨今の住宅事情や

人間関係の変化によって大きく変わってしまいました。ことは、大変残念なことでもあります。

仏前結婚式は、お寺のご本尊の仏さまの前での挙式ですが、一般的にはまだなじみが薄いようです。しかし、つい数10年前までは自宅の仏間で結婚式を挙げるのが当たり前だったことを考えれば、仏さまの前での結婚式ほど、日本人にとって自然な形はないのではないのでしょうか。

「範」に述べられています。尊い縁によって結ばれたお互いが、阿弥陀如来の御前において、浄土真宗のみ教えを土台として生涯を共にすることを誓う儀式が、仏前結婚式であります。

お寺の本堂で行われる式は大変厳かなもので、人生の門出にふさわしいものです。式に雅楽の演奏が加われば、いっそう荘厳な雰囲気となります。

仏前結婚式はあくまでも仏事ですので、法要の導師にあたる司婚者が式を取り仕切ります。

式の流れは、①お勤め②誓いの言葉③記念念珠授与(希望があれば、続いて指輪交換)④新郎新婦焼香⑤司婚者法話(祝辞)。

司婚者の退出後、式盃と親族紹介が行われるのが普通です。

鷲森別院の本堂でも結婚式が行われています。関心がある方は、ぜひ一度お問い合わせください。

(松本教智・御同朋の社会をめぐす運動)和歌山教区委員長)

ラジオ放送番組
みほとけとともに
 - 西本願寺の時間 -

◆ 毎週土曜日 午前5時50分から
 - 和歌山放送 (WBS) -

和歌山・串本	1431kHz
田辺・すさみ	1233kHz
橋本・高野山	1485kHz
新宮・御坊	1557kHz

新

祖蹟点描

15 比叡山 四季講堂

横川にある四季講堂(元三大師堂)



慈恵大師、教学振興の反面、貴族化へ道開く

(養和1) 11月に横川の檢校(寺務監督者)になったというのも、青蓮院門跡が横川の主要寺院を管理していたからで、先代の覚快法親王が亡くなり、慈恵がその跡を継いだのである。

この時代、青蓮院門跡と梶井門跡によって比叡山の多くの寺院が管領されていた。青蓮院門跡であれば、東塔北谷の桂林房、同塔無動寺谷の大乗院、南山房、西塔北谷の東陽房、横川の

は2度)、梶井門跡が3人を占めているのである。親鸞聖人もまた、このような門跡閥ともいえる状況を意識せざるを得なかったはずである。

この状況の発端は、慈恵大師良源(912~985)の時代にある。慈恵大師は、当時衰退していた横川を復興し、東塔・西塔と並ぶ体制を築いた。横川に常行堂が建立されたのもこのころである。55歳で第18代天台座主に就任。しかし2カ月後に比叡山は大火に遭い、多くの堂舎が焼失する。慈恵大師はその再建に奔走。堂舎の整備に伴い僧徒も増え、慈恵大師は僧徒に対する教学の振興に尽力した。「比叡山中興の祖」といわれるゆえんである。

たのが藤原師輔だった。師輔は息子尋禅を慈恵大師の弟子とする。尋禅は慈恵大師の後を受けて第19代天台座主に。これ以降、比叡山には皇族や貴族の入寺が続き、比叡山に貴族社会の力関係が投影されるような状況を呈したのである。

今回訪れた横川の四季講堂は、慈恵大師の住房だった定心房がルーツ。慈恵大師が季節ごとに学徒を集めて経典の講義と論義を行ったことから、その名がある。慈恵大師は正月三日に入滅したため元三大師とも呼ばれ、四季講堂を通称して元三大師堂ともいう。

比叡山“門跡閥”の現実

前回、比叡山における「門跡」の存在について少し触れた。平安時代の中ごろから、天皇家や摂関家などの子弟が仏門に入るといふ風潮が盛んになる。彼らが居住、または任職(門主)を務める特定の格式を持った寺院あるいはその任職自身を門跡と呼ぶようになった。

親鸞聖人のおられたころの比叡山では、門跡が大きな力を持っていた。この問題を考えるため、再び横川へと足を向ける。「祖蹟点描」の趣旨からは外れるが、

かもしれないが、お付き合い願いたい。青蓮院門跡、梶井門跡(三千院門跡とも)、妙法院門跡を合わせて天台宗三門跡という。このうち親鸞聖人が比叡山におられたころに特に力を持っていたのが、青蓮院門跡と梶井(三千院)門跡だった。

これらの寺院は初めは比叡山上にあった。青蓮房であれば、のちに第48代天台座主となる行玄(藤原師実の子)のときに(1150)門跡となり、その里房(都に滞在するための房)として現在の京都市内に青蓮院が建てられた。

青蓮院門跡の第3代門主が、親鸞聖人の出家の戒師となった慈円(慈鎮和尚)である。慈円が1181年

楞嚴三昧院、常行三昧堂、法華三昧堂など。梶井門跡であれば、東塔の文殊楼院、四王院、延命院、同塔南谷の実相院、同塔北谷の持明院、横川の恵心院など。門跡の力は、天台座主(延暦寺住職で天台宗の最高位)の選出にも及んでいた。親鸞聖人の在叡時代、8人が天台座主に就いているが、そのうち青蓮院門跡が慈円を含めて2人(慈円

【参考文献】千葉乗隆「中世の比叡山」「比叡山I」(大阪書籍)、畑龍英「愚弄親鸞の実像」(教育新潮社)。(本紙編集部)

滋賀県大津市坂本本町4220
電話077(5778)0001(代)

場所 交通

京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス「ゲート」坂本線で7分、「ゲート」坂本「駅」下車、坂本「ゲート」に乗り換え11分、「ゲート」延暦寺「駅」下車、徒歩15分、延暦寺バスセンターから比叡山内シャトルバスで13分、「横川」下車、徒歩10分。

滋賀県大津市坂本本町4220
電話077(5778)0001(代)

京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス「ゲート」坂本線で7分、「ゲート」坂本「駅」下車、坂本「ゲート」に乗り換え11分、「ゲート」延暦寺「駅」下車、徒歩15分、延暦寺バスセンターから比叡山内シャトルバスで13分、「横川」下車、徒歩10分。

比叡山四季講堂

場所 滋賀県大津市坂本本町4220
電話077(5778)0001(代)

交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス「ゲート」坂本線で7分、「ゲート」坂本「駅」下車、坂本「ゲート」に乗り換え11分、「ゲート」延暦寺「駅」下車、徒歩15分、延暦寺バスセンターから比叡山内シャトルバスで13分、「横川」下車、徒歩10分。

鷺森別院

二尊会に教区全域から参拝

4日間で700人が集う

5月13日〜16日、鷺森別院で恒例の二尊会が厳かに営まれ、4日間で教区内の僧侶・門徒ら約700人が参拝した。

二尊とは、宗祖親鸞聖人と本願寺第8代蓮如上人の

こと。両師の遺徳を慕い、そのご教導によって浄土真宗のみ教えに遇えたことを喜び法要が勤められた。

本堂には、年に一度だけこの法要に合わせ、紀州の歴史的法宝物である「二尊像」(親鸞聖人と蓮如上人連座の御影)が奉懸される。

この二尊像は、鷺森別院

歴史的法宝物「二尊像」を奉懸してお勤め



満堂の本堂に正信偈が響きわたる

の起源である清水道場(現在の海南南組了賢寺)の開基了賢が蓮如上人から賜ったもの以来紀州門徒の心の拠り所として、現在まで大

青色青光

切に受け継がれてきた。

期間中、和歌山教区仏教婦人会連盟、仏教壮年会連盟、寺族女性会、門徒総代会が午前中に総会・研修会を開催し、法要に参拝した。

鷺森テレホン法話
073-422-0243

こころの電話(海南組西光寺) TEL(073) 487-2430
ヤングこころの電話(同上) TEL(073) 487-0404
こころの電話(御坊組専福寺) TEL(0738) 44-0874

午前中に初参式を併催 教区内から18人参加



本堂で記念撮影する初参式参加者

鷺森別院で恒例の降誕会

三浦明利さんの歌声が花添える

鷺森別院では5月20日、親鸞聖人のご誕生をお祝いする恒例の宗祖降誕会をお勤め。これに合わせ、午前中に初参式を行った。

午前11時から本堂で行われた式には、教区内の寺院に所属する幼児や鷺森幼稚園園児18人と親御さんらが参加。

初参式は、一緒に讃仏偈

とつても、お子さまを縁として頂く尊い仏縁であります。いのち恵まれたことを阿弥陀さまの前で家族一緒にお祝いし、尊いご縁を頂いたことを共に感謝いたしました。と祝辞。最後に讃歌「小さきあこに」を斉唱して閉式した。

その後、降誕会で法話コンサートを開く三浦明利さん(吉野郡大淀町・光明寺)が、一足早く初参式記念ミニコンサート。「ありがとつ私を包むすべてに」と「のんのさま」の2曲を歌い、初参式に花を添えた。

ることを聞かせていただく大切な式です。それは親に

をお勤めし、お勤めの中に子どもが焼香。中岡順忍輪番が「初参式についての消息」を拝読、その後、記念のお念珠を一人ひとりに手渡した。

中岡輪番は「お子さまが初めてお寺にお参りする初参式は、お子さまが仏の子として、人生が常に阿弥陀さまのお慈悲に包まれてい



熱唱する三浦明利さん

午後1時30分からの法要は、教区内14組から各1人の僧侶が出勤し、参拝者と正信念仏偈をお勤め。

続く三浦さんの法話コンサートでは、「故郷」「恩徳讃」などなじみ深い曲のほか、わが子を亡くした女性がお釈迦さまに会い真理に目覚める「キサー・ゴータミー説話」の一人語りも披露された。

行事案内のデザイン学



講師が各班を回りアドバイス

青色青光 子どもに向けた情報発信を

第3ブロック少年連盟指導者研修会

和歌山教区少年連盟(山本行圓委員長)では6月12~13日の2日間、鷺森別院を会場に、第3ブロックから「子どもに伝わるデザイン(近畿)少年連盟指導者研修会を開催した。子どもに向けた情報発信を学ぼうと、グラフィックデザイナーの芝田陽介さんから「子どもに伝わるデザインのつくり方」と題する講義を聴いた。



6教区から参加した43人は、教区ごとに8班に分かれてデザインの見せ方やレイアウトの考え方を学び、意見交換をしながら実際に各教区や組の少年連盟が主催する児童向けの行事案内を作成した。

多くの参加者にとって、案内文などのデザインを学ぶのは初めての機会だったが、行事の目的やコンセプト、対象の設定などを何度も確認するなど、試行錯誤を重ねながら行事案内の作成に挑戦した。

2団体で役員改選

寺族女性会新役員

(任期は2019年3月31日まで)

- ▼委員長 吉田敬子(和歌山東組正善寺) ▼副委員長 西殿恵美子(和歌山組西正寺)、藤岡真澄(有賀組専念寺) ▼会計 藤範真美(伊那組光円寺) ▼監査 生田明子(有田南組称念寺)、真田浄子(紀南組浄行寺) ▼委員 伊藤理恵(和歌山西組西教寺)、北

条道子(和歌山北組慶圓寺)、津村景子(加茂組西福寺)、吉村啓子(海南組慶證寺)、花田好美(海草組教了寺)、佐々木栄子(有田北組教念寺)、藤本弘子(日高組即生寺)、木下篤子(御坊組善妙寺)

仏教壮年会連盟新役員

(任期は2020年3月31日まで)
▼理事長 道場雅夫(有

- 田南組本勝寺) ▼副理事長 中野孝司(和歌山東組玄通寺)、前川幸三(伊那組浄真寺) ▼監事 林弘治(有田北組教念寺)、森下将美(日高組浄明寺) ▼顧問 立花美一(海南組浄國寺)

- ▼理事 竹本淳一(和歌山組西法寺)、神保豊(和歌山西組浄福寺)、松本全弘(和歌山北組浄源寺)、岡室一彦(加茂組青蓮寺)、中川幸宣(海草組蓮乗寺)、藤岡寛光(有賀組専念寺)、小出敏弘(御坊組三宝寺)、久堀義友(紀南組善福寺)

責任役員・総代に辞令伝達

5月12日、鷺森別院二尊会初日の門徒総代のついでに合わせて、「責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式」が行われた。

今回の伝達式は、昨年10月1日から3月31日までに願記申請され、新たに就任した責任役員、門徒総代81人(23カ

出席した寺院代表者一人ひとりに、中岡順忍和歌山教区教務所長が辞令と記念品を伝達。中岡所長はあいさつで「各寺院における現状や課題はさまざまですが、任職と協力し、さらに聞法の輪が広がるような活動を展開していただき、宗門がますます発展していくように共により進んでいきましょう」と激励。



和歌山組 『真宗』合冊発刊 別院で記念の法座 和歌山組では広報紙『真宗』(A4判4巻)を年2回発行しているが、3月末に創刊号(1967年12月)から101号(2011年8月)までを合冊にした本を発刊。これを記念して4月17日、長らく編集に携わった宮本龍勝師(同組善能寺前任職)が、実践運動門信徒協議会の場で、創刊の経緯や編集の苦勞などを話した。

寺)が対象。

和歌山教区教務所では、年2回伝達式を行っている。

編集の苦勞を話す宮本龍勝師

苦勞などを話した。



ご満座の法要後にインタビューを受ける(左から)専如門主、長男・敬さま、長女・顕子さま、流豆美裏方(阿弥陀堂)

法要円成 有り難く感謝

専如門主、インタビューに答え心境語られる

80日間で15万4015人が参拝

伝灯奉告法要 5月31日にご満座迎える



伝灯奉告法要ご満座のお勤め(御影堂)

にぎにぎしく厳かに 最終日のお勤め

5月31日、伝灯奉告法要の最終日。多くの参拝者でにぎわうご本山・西本願寺では、阿弥陀堂と御影堂に入りきれない参拝者のために縁にまでイスが並べられにぎにぎしく厳かにご満座の法要が勤められた。

80日間におよんだ法要への参拝者は、合わせて15万4015人。和歌山教区から団体参拝は4113人。法要円成を機に、和歌山教区内から伝灯奉告法要に参らされた方々に、「私の参拝体験」と題して思い出を寄せていただいた。

感動の思い出 今も胸の中に

私の参拝体験

ご満座の法要に感無量

北村ヨネ(鷲森別院 仏教婦人会会長)

伝灯奉告法要の最終日、

鷲森別院仏教婦人会の有志10人で、伝灯奉告法要に参拝させていただきました。

法要で皆さまと一緒に声高らかにお勤めをさせていただき、御消息発布式に接することができました。と、一生の良い思い出となると心に秘め、うれしくまた感無量になりました。

私たち仏教婦人も、一人でも多くの方に入会していただけるよう頑張りたいと思っております。

初めての音色に魅了され

島村美穂(和歌山教区仏教婦人会連盟委員長)

法要の途中、ご門主さまと前門さまが、阿弥陀堂と御影堂とを「ご転座」になられる際に演奏されたのが、新たに作られた雅楽曲「伝灯御光榮」でした。なかでも初めて聴く創作楽器「響灯」のきらきらした音色にすっかり魅了されました。

と心境を語られた。

最後の質問は、約6年後の親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年をお祝いする法要に向けてのご心境について。ご門主は、「これからも多くの皆さまに浄土真宗のみ教えを聞いていただき、お寺へお参りいただくためのアイデアが、今回の法要を振り返ることで出てくると思えます。そのようなことを生かして、次の法要にも多くの皆さまにお参りいただけるように努めてまいりたいと思います。」

どうぞこれからもよろしくお願いたします。今日はありがとうございました」と述べられた。堂内からはご門主の思いに共感するように、お念仏と共に大きな拍手が湧き起こった。

それはまさに阿弥陀さまの光といのちを思わせてくださる美しい音色で、この音色をもう一度聞かせていただきたいとの思いから、結局4度の法要参拝のご縁を頂くことになったのです。10年前にお浄土に往生した父の笑顔、3年前に仏となられた義母の姿もしのばれ、一足先にお浄土に参られた縁ある人たちが皆、笑顔でこのご縁を喜んでくださっていると感じさせていただいた法要でした。

奉仕で参拝者に声掛け

竹本淳一(教区門徒推進員連絡協議会副会長)

昨年10月6日と今年4月2日、門徒推進員奉仕活動に参加させていただきました。安穩の法被を着て門に立ち、ご参拝にいられた方へ「ようこそお参りになりました」。また、法要後は「ようこそお参りでした。気を付けてお帰りください」と声掛けしましたが、最初はなかなか大きな声が出せず戸惑っていました。

しかし、ご参拝の方々の温かい眼差しと「ありがとう」の言葉が、「南無阿弥陀仏」の声となって聞こえてきました。いつでもどこでも私はいらるよと、阿弥陀仏の声だと感じられました。そのときにしかできない体験ができ、感謝しています。この縁縁によっていよいよお念仏の輪が広がることを願ってやみません。

法要出勤は貴重な経験

松本秀法(日高組信行寺住職)

4月26日、5月24日と25日に結果として内陣出勤しました。係りの方が事前に行法の確認をされる際、「この法要の様子は全世界に発信されているので動作を的確に」との言葉に身が引き締まる思いがしました。奉讃伝灯作法では、4回の座前立列、散華、御転座の間には行道もあり、これらについても座前躊躇から起立するタイミングや行道の動作の細かい注意がありました。これまで出勤させていたただいていた御正忌報恩講法要とはまた異なる作法で緊張しましたが、貴重な経験をさせていただくことができました。

ご門主に生き方問われる
山本 勇(和歌山教区門徒総代会会長)

4月2日、和歌山北組からバス5台、195人(14力寺)で団体参拝をいたしました。

喚鐘が鳴り、いよいよお勤めが始まる時、今、この時、この場所でないと思うことのできないご縁縁と、胸が熱くなってきたのを覚えています。

本願寺を出るときも、布袍姿の僧侶、職員の方々が最後まで手を振り見送ってくださいました。感謝を覚えました。

今、私たちは「念仏者としての生き方」をご門主から問われているのではないのでしょうか。

私が現役で働いていた時代は、大量生産、大量消費が良いとされた時代でした。しかし、世界中に食べることもさえもままならないで苦しんでいる人がいることを知られるとき、私にもいのちを粗末にする心があったことに気付かされました。阿弥陀如来の智慧の光明に包まれて日々の生活を送るとき、「もったいない」という生活を心掛けたらと思っております。

全国の方と同じ思い共有

道場雅夫(和歌山教区仏教社年会連盟理事長)

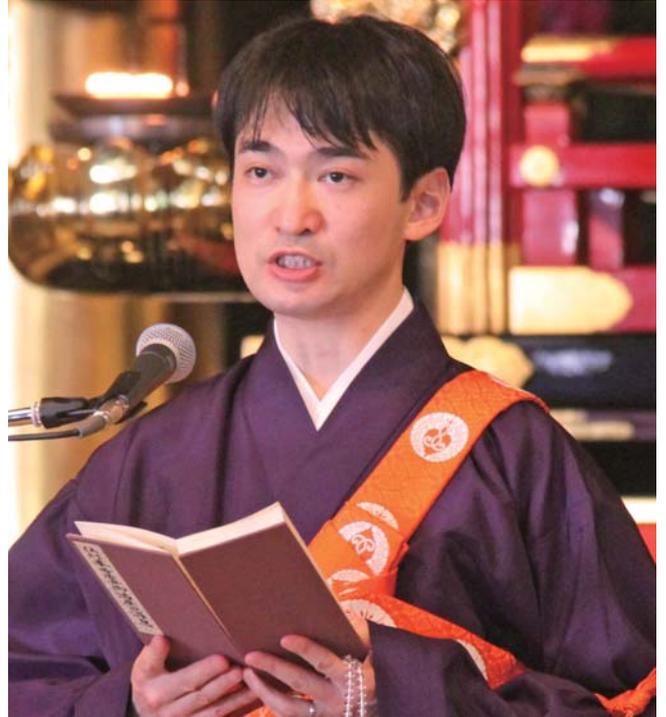
全国の同朋の皆さまと一緒に、雅楽の音色が醸し出す荘厳な雰囲気の中で、奉讃伝灯作法をお勤めさせていただきました。私一人ではない、同じ思い、同じみ教えを共有する人が、こんなにもたくさんいらっしゃることに感じ、有り難かったです。大谷宗家の皆さま方のお姿を拝見させていただき、ご門主、お裏方、皆さまへのインタビューでは、身近にお姿やお言葉、ごあいさつに接し、ほほ笑ましく心温まる思いでした。

第25代専如ご門主が法灯を継承され、新しい時代の場に、ご門徒の皆さまと一緒に参拝できる尊いご縁を頂きました。

これからは、専如ご門主がご親教「念仏者の生き方」で示されている「少欲知足」「和顔愛語」という生き方を心掛けてまいりたいと思っております。

第25代 専如門主

伝灯奉告法要御満座の消息



求するあまり、一部の方々に過酷な現実を強いるという現代社会の矛盾の一つが露わになったということが出来ます。

自分さえ良ければ他はとうなつてもよいという私たちの心にひそむ自己中心性は、時として表に現れてきます。このような凡愚の身の私たちではありますが、ご本願に出遇い、阿弥陀如来のお慈悲に摂め取られて決して捨てられることのない身ともなっています。そ

み教えとは異なるものです。即如前門主の『親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息』には、

凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていた

三十五)年には宗祖誕生八百五十年、そして、その翌年には立教開宗八百年という記念すべき年をお迎えいたします。

改めて申すまでもなく、その慶讃のご法要に向けたこれからの生活においても私たち一人ひとりが真実信心をいただき、お慈悲の有り難さ尊さを人々に正しくわかりやすくお伝えすることが基本です。そして同時に、仏さまのような執われない完全に清らかな行いはできなくても、それぞれの場で念仏者の生き方を目指し、精一杯努めさせていただきますことが大切です。

み教えに生かされ、み教えをひろめ 自他ともに心安らぐ社会の実現を

昨年(平成29年)の十月一日よりお勤めしてまいりました伝灯奉告法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。十期八十日間にわたるご法要を厳粛盛大にお勤めすることができましたことは、仏祖のお導きと親鸞聖人のご遺徳、また代々法灯を伝えてこられた歴代宗主のご教化によることは申すまでもなく、

昨年(平成29年)の熊本地震から一年を経過し、甚大な被害をもたらした東日本大震災から六年が過ぎました。改めてお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。どれほど時間が経過しても心の傷は癒されることなく、

深い痛みを感じてお過ごしの方も多くおられるでしょう。なかでも、原子力発電所の事故による放射線物質の拡散によって、今なお故郷に帰ることができず、不自由な生活を余儀なくされている方々が多くおられます。思うままに電力を消費する便利で豊かな生活を追

り、親鸞聖人のお心になったものであるといただきたくしたいと思います。このことは、ご法要初日に「念仏者の生き方」として詳しく述べさせていただきました。

平成二十九年 五月三十一日
二〇一七年

日本全国のみならず、全世界に広がる有縁の方々の報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く思われます。

今、宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇二三(平成

今、宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇二三(平成

今、宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇二三(平成

今、宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇二三(平成

龍谷門主 釋 専如

和歌山大空襲の日に追悼法要

平和を希う念仏者の集い

7月9日、鷺森別院本堂で

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 和歌山教区委員会では7月9日(日)、第24回 平和を希う念仏者の集い―全戦没者追悼法要―を、鷺森別院本堂で開催する。

午後1時30分から追悼法要をお勤め。続いて、コーラスグループかりょうびんが鷺森のリードで仏教讃歌を唱和。午後3時10分からは記念講演。大賀正行さん(和歌山人権研究所顧問)が、1945年7月9日の和歌山大空襲の被災体験を踏まえ「私と和歌山大空襲と秋月時代」と題して話す。「非戦平和」パネル展も同時開催。

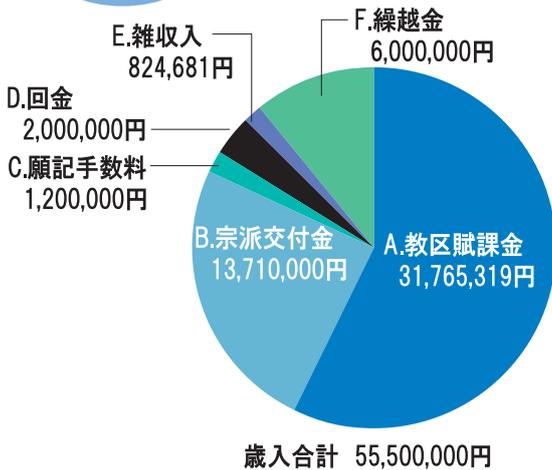


和歌山市民会館で行われた昨年の追悼法要

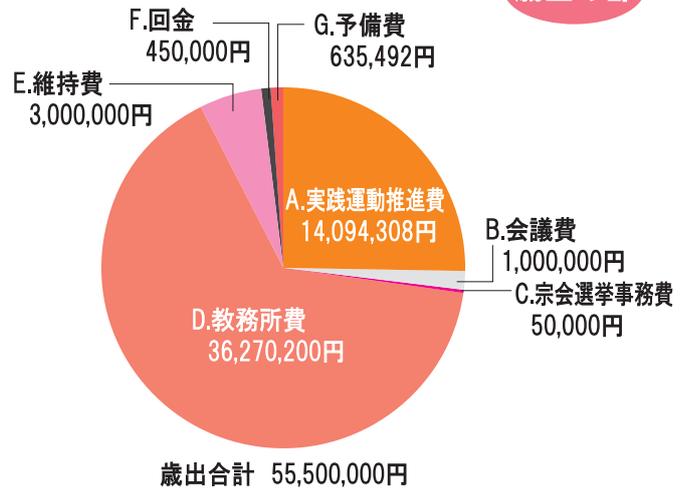
2017年度和歌山教区一般会計歳計予算

(2017年4月1日～2018年3月31日)

歳入の部



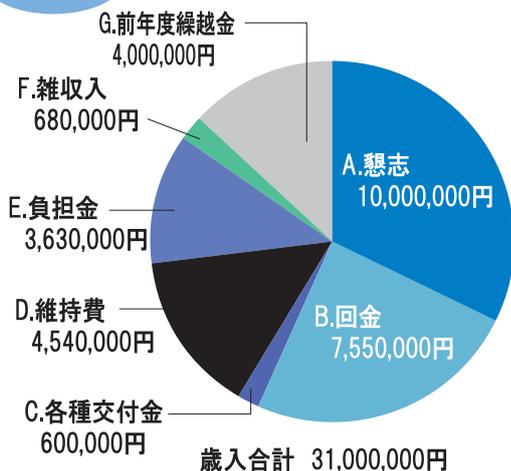
歳出の部



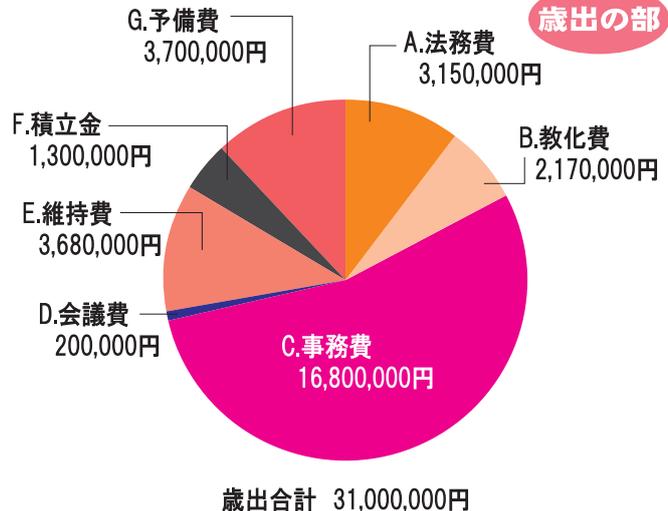
2017年度本願寺鷺森別院一般会計歳計予算

(2017年4月1日～2018年3月31日)

歳入の部



歳出の部



響流十方

7~10月の催し

和歌山教区

本山

- 7月10~11日 全国布教使大会
- 8月14~15日 孟蘭盆会
- 8月15日 戦没者追悼法要、夏御文章御収軸式
- 9月2日 第22回全国仏教壮年東北大会(トークネットホール仙台)
- 9月18日 第27回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要(国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)
- 9月20~26日 秋季彼岸会
- 9月26~28日 全国寺族青年軟式野球大会(山城総合運動公園太陽が丘球場)
- 10月3日 住職補任研修
- 10月4日 住職補任式
- 10月15~16日 龍谷会(大本願)
- 7月1日 勤式講習会(鷺森別院)
- 7月3日 布教団役員会、総会(鷺森別院)
- 7月5日 護持口数調整委員会、組長会(鷺森別院)
- 7月7日 教区仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
- 7月9日 平和を希う念佛者の集い(鷺森別院)
- 7月27日 紀南開教布教者(鷺森別院)
- 7月31日 布教団連続法座(鷺森別院)
- 8月3~4日 児童念仏奉仕団(本願寺)
- 8月22~23日 第3連区布教使研修会(滋賀教区)
- 9月2日 勤式講習会(鷺森別院)
- 9月2~4日 仏教壮年会連盟「第22回全国仏教壮年東北大会」研修旅行(仙台)

教区内各組

- 9月9日** 第1ブロック聞法のつどい(鷺森別院)
- 9月10日** 第2ブロック聞法のつどい(海南市民交流センター)
- 9月30日** 第3ブロック聞法のつどい(日高別院)
- 10月1日** 『てら×エモ』教区寺族青年連盟結成30周年記念行事(鷺森別院)
- 10月3日** 近畿地区仏教婦人会大会(大阪教区)
- 10月7日** 勤式講習会(鷺森別院)
- 10月18日** 布教団連続法座(鷺森別院)
- 9月9日** 第7期門徒推進黨養成連続研修会③(鷺森別院)
- 9月9日** 仏教壮年会連盟・門徒総代会合同理事会(養専寺)
- 9月14日** 仏教婦人会々々ナ活動(鷺森別院)
- 9月未定** 寺族女性会例会(未定)
- 10月23日** 仏教婦人会連盟報恩講(本弘寺)
- 10月未定** 寺族女性会例会(未定)
- 10月未定** 仏教婦人会々々ナ活動(鷺森別院)
- 6月24日** 組内会(善正寺)
- 7月2日** 第10回和歌山西組キッズサンガ(鷺森別院)
- 7月16日** 第17期門徒推進黨養成連続研修会②(西勝寺)
- 8月6日** 組内会(光源寺)
- 9月3日** 第17期門徒推進黨養成連続研修会③(光源寺)
- 10月1日** 組内会(安楽寺)
- 10月下旬** 和歌山西組寺族婦人会例会(徳号寺)
- 7月未定** 寺族女性会例会
- 7月22日** 第12期門徒推進黨養成連続研修会⑦(善勝寺)
- 8月26日** 第12期連研スタッフ会議⑧(慶圓寺)
- 9月2日** 第2回組内会(慶圓寺)
- 9月9日** 第12期門徒推進黨養成連続研修会⑧(浄永寺)
- 9月30日** 第12期連研スタッフ会議⑨(慶圓寺)
- 7月1日** 組仏教壮年会総会・研修会(青蓮寺)
- 7月22日** 第15期門徒推進黨養成連続研修会⑨(教徳寺)
- 8月19日** 第15期門徒推進黨養成連続研修会⑩(願称寺)
- 9月2日** 第15期門徒推進黨養成連続研修会⑪(浄満寺)
- 10月28日** 第15期門徒推進黨養成連続研修会⑫(徳心寺)
- 7月15日** 第3期門徒推進黨養成連続研修会⑤(西光寺)
- 8月26日** 第8回海南組キッズサンガ(浄國寺)
- 9月16日** 第3期門徒推進黨養成連続研修会⑥(遍照寺)
- 7月2日** 門徒総代会総会、寺族女性会総会、各団体合同研修会(報徳寺)
- 8月22日** 第9回キッズサンガ(蓮乗寺)
- 7月20日** 組実践運動推進協議会臨地研修(あすなろ共同作業所、ばん工房かたつむり)
- 7月29日** 組内会(専念寺)
- 9月26日~27日** 第19回有賀組念仏奉仕団(本願寺)
- 7月未定** 組キッズサンガ準備会(称念寺)
- 9月未定** 組キッズサンガ(未定)
- 7月29日** 組門信徒研修会(教蓮寺)
- 7月15日** 門徒総代会前期研修会(円行寺)
- 7月27日** 紀南開教布教者(西法寺・妙福寺)
- 10月10~11日** 第6回紀南組門徒総代会念仏奉仕団(本願寺)

和歌山北組

伊那組

有賀組

有田南組

有田北組

日高組

紀南組

海草組

10月1日に和歌山教区寺族青年連盟 結成30周年記念イベント



和歌山教区寺族青年連盟が今年で結成30周年を迎える。これを記念して10月1日(日)午後2時から「お寺でエモーション～なけるコトバ わらえるコトバ ひびくコトバ～」と題したイベントを鷺森別院本堂で開催する。

当日の出演者



釈徹宗師



安徳剛典師



おまけびと

お寺でエモーション

～なけるコトバ わらえるコトバ ひびくコトバ～



新入職員紹介

2017(平成29)年4月1日付人事により、武藤広海氏(長崎教区諫東組光源寺)が本願寺津村別院・大阪教区教務所へ異動、本願寺鷺森別院・和歌山教区

お寺で行われるご法座を若い方にも親しんでもらえるようにと寺族青年が企画。出演者は、節談説教の安徳剛典師、アコースティックギターデュオのおまけびと、LIFE SONGS プロジェクト。メインスピーカーは、テレビや著作



LIFE SONGS プロジェクト

「4月1日から奉職させていただきます。教務所に西岡顯教氏(和歌山東組蓮光寺)が着任した。今後はその学びを自教区であるこの和歌山の地で活かしていきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願いたします」と抱負。

などで活躍中の釈徹宗師(相愛大学教授)。釈師は講演に加え、出演者との対談を行うなど進行役も務める。詳細は鷺森別院まで。

鷺森別院の催し

常例法座

7月15、16日、西光義秀師(宇陀市室生区・萬行寺)。8月16日、軌保真澄師(朝来市生野町・極楽寺)。9月15、16日、葛本徹哉師(南河内郡河南町・高林寺)。いずれも午後1時30分から。

秋季彼岸会

9月22、24日の3日間、彼岸会をお勤めする。午後1時30分から本堂で仏説阿弥陀経をお勤め。引き続き、午後3時まで窪田憲龍師(たつの市龍野町・源徳寺)の法話を聴聞する。

8月15日、午後1時30分

市鷺森1番地 電話073-422-4677

日高別院の催し

秋季彼岸会

9月25日、午後1時30分から。布教使は窪田憲龍師(たつの市龍野町・源徳寺)

10月20日、午後1時30分

御坊100 電話0738-122-0518

得度

6月 谷河由和(和歌山西組長樂寺)
橋本信子(御坊組善妙寺)

丸山せつ子(日高組出照寺・住職) 4月14日
木下真人(御坊組善妙寺・住職) 5月17日

敬弔

安井眞隆(有賀組正覚寺・住職) 3月21日

脇坂静炬(和歌山西組光源寺・前任職) 6月10日
ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げ、謹んで敬弔の意を表します。

つれもて 聴こら

母親を亡くし祖父母に育

てられた宇野少年。「お米一粒一粒の中に仏さまがい

吉村隆真

き込みました。宇野少年の想像では、レンズの中にはまばゆいばかりの光り輝く仏さまの姿が浮かんでいたことでしょう。

ところが、レンズの中には仏さまの姿はなかったのです。先生に事の一部始終を話すと、先生は大笑いし



君のおじいさんはちゃんと勉強をしていないから、そういうことを言うのだよ」。

ショックを受けた宇野少年は、家に帰るなり泣きながら「お米の中に仏さまなんかいやじゃないじゃないか。どうしてじいちゃんは僕に

がいらつしやる。先生にはそれがまだ見えていないんだ。だから、今はまだ分からないかもしれないけれども、お前もじいちゃんのように、お米の中の仏さまに出会うような大人になつてくれよ」と、宇野少年を諭しました。

なかつたのでしょうか。お米ができるまでには大変なご苦労があります。そういうご苦労があつてこそ、私にお米が恵まれています。おじいさんは、多くのご苦労の「おかげさま」というものを、仏さまという象徴的な言葉で表現されたのでしよう。先生とおじいさんとは、物の見方が全く違うのです。

仏さまの「智慧」に出会いますと、背後を見る目が生まれれます。「おかげさま」が見えるということですね。「おかげさま」は、非常に美しい言葉です。もともとは単に「陰」です。見えないところでしっかりと私を支え育んでいて、陰があつたと気付いたとき、それを呼び捨てにはできなくなります。「お」と「さま」という敬いの言葉を二つも付けて、「おかげさま」と自然と頭がさがりま

から自分の目では見ることができないものを家から持ってきたささいい」。先生の言葉を聞いた宇野少年は、頭にぱっと米粒のことがひらめきました。明くる朝、米一粒を大事に握りしめて学校へ行き、ワクワクしながら顕微鏡のレンズをのぞ

て言いました。「君が一生懸命に目をこらしても仏さまなんか見えやしないよ。お米というのはね、水分・脂肪・タンパク質、こういうものでできているのだよ。

「お米の中には仏さまがいらつしやる」

うそをついていたんだ」と言いました。するとおじいさんが、お仏壇の前に座り「じいちゃん決してうそなんてついでやおらん。お米の中には間違いない仏さま

借りましたうえで言葉では

先生は、お米を「知識」という目でご覧になったのでしょうか。ですが、このおじいさんは知識ではなく、仏さまの「智慧」の眼をお

をさせてもらおうという気持ちで芽生えてきます。仏教では、いつでも、どこでも、誰にでも、具体的に実践できる七つの布施があります。

①眼施(温かいまなざし) ②和顔悦色施(にこやかな笑顔) ③言辞施(やさしい言葉) ④身施(身に寄り添う) ⑤心施(心に寄り添う) ⑥床座施(居場所を与える) ⑦房舎施(温かく迎える)。

私は、阿彌陀さまのように十方衆生を救うことは到底できません。しかし、阿彌陀さまの真似ごととなりとも、この無財の七施を通して、身近な方々に阿彌陀さまのお慈悲を少しでもお裾分けしていきたいものです。

宗派では「御同朋の社会をめざす運動」を実践運動として展開中です。この運動こそ「阿彌陀さまのお慈悲のお裾分け運動」と私は受け止めています。

(熊本市川口町・良覚寺)
5月15日の鷲森別院二尊会の法話から